

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成21年度決算ハイライト

平成22年5月18日

● 損益サマリー	2
● 部門別業績概要	3
● B/Sサマリー	4
● 貸出金・預金	5
● 貸出資産の状況	6
● 保有有価証券の状況	7
● 保有証券化商品等の状況	8
● 自己資本の状況	9
● 22年度業績目標／配当金予想	10

＜本資料における計数の定義＞

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

(単位:億円)

●業務純益

- 業務粗利益は金利低下に伴う預金収益の減少の一方、法人貸出収益、市場関連収益の増加やアコム連結化などにより増加
- 営業費は統合効果に加え、グループ挙げでの経費削減への取り組みにより、アコム連結化要因を除けば減少
- 以上の結果、実質業務純益は増加、アコム連結化を除いても大幅な増益を確保

●与信関係費用総額

- 2行合算では略横這いだが、その他連結子会社での増加、アコム連結化により増加

●株式等関係損益

- 株式等償却の減少のほか、政策投資株式の売却益計上等もあり大幅な改善

●その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

<連結P/L>		20年度	21年度	増減	除く アコム
1	業務粗利益 (信託勘定償却前)	32,729	36,004	3,275	1,514
2	資金利益	19,759	21,771	2,012	441
3	信託報酬+役務取引等利益	10,895	10,936	41	▲117
4	特定取引利益+その他業務利益	2,074	3,295	1,221	1,191
5	うち国債等債券関係損益	809	498	▲310	▲310
6	営業費	20,837	20,848	11	▲686
7	実質業務純益	11,891	15,155	3,263	2,201
8	与信関係費用*1	▲6,084	▲8,252	▲2,167	▲1,169
9	株式等関係損益	▲4,087	324	4,412	4,404
10	その他の臨時損益	▲891	▲1,771	▲880	▲759
11	経常利益	828	5,456	4,628	4,677
12	特別損益	322	510	187	166
13	法人税等合計	3,019	1,509	▲1,509	▲1,526
14	当期純利益	▲2,569	3,887	6,456	6,516
15	与信関係費用総額*2	▲6,084	▲8,252	▲2,167	▲1,169
16	うち2行合算	▲3,901	▲4,044	▲142	▲142

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

*2 与信関係費用総額=与信関係費用+貸倒引当金戻入益
+偶発損失引当金戻入益(与信関連) (▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

17	1株当たり利益	▲25.04	29.57	54.61
18	連結ROE*3	▲3.97%	4.92%	8.90%

*3

当期純利益-非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)
+ (期末株主資本合計-期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定)}÷2

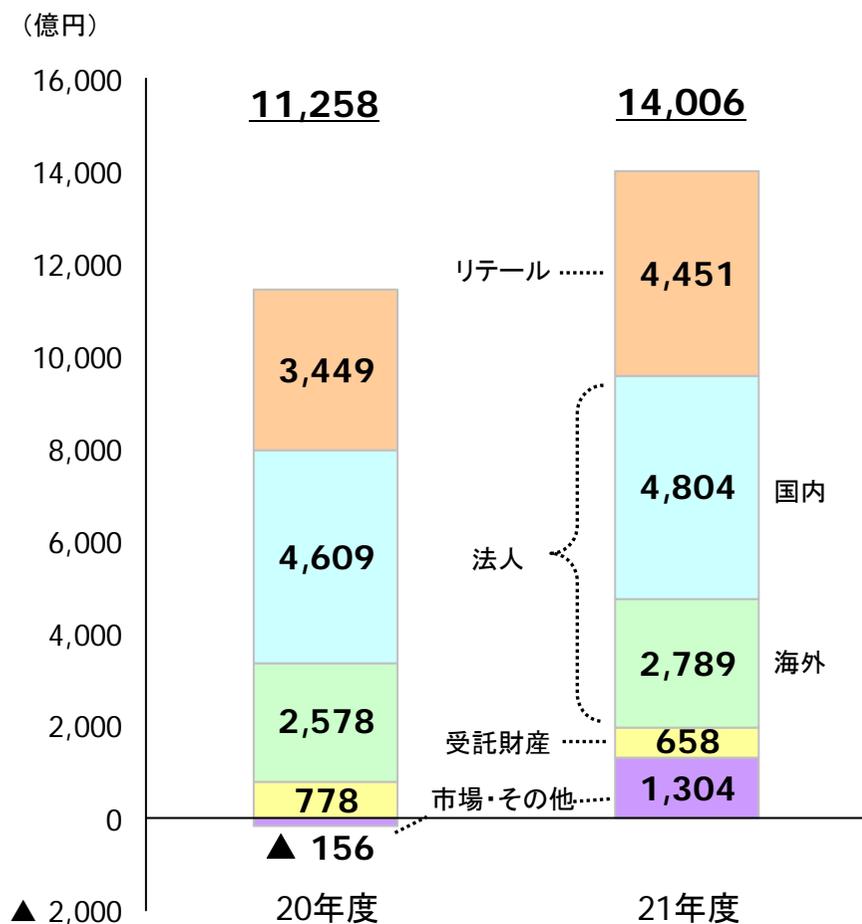
部門別業績概要

【連結】

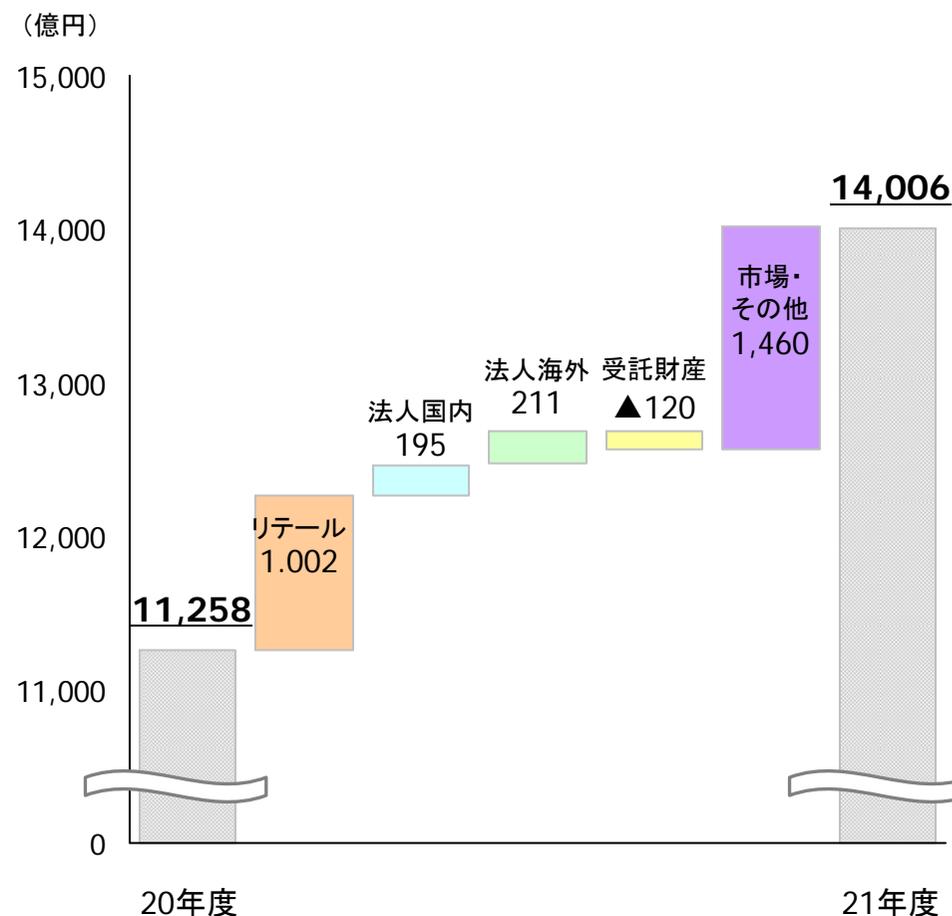


- 営業純益は受託財産を除く全部門で増加し、全体では前年度比+2,748億円の増益
- 金利低下に伴う預金収益等の減少を貸出収益、市場関連収益の増加や経費削減等でカバー。

部門別営業純益^{*1}



営業純益増減内訳^{*1}



*1 管理ベースの連結業務純益
信用リスクヘッジに係るクレジットデリバティブ損益は「市場・その他」に計上

●貸出金

- 国内外における法人貸出の減少や泉州銀行の非連結化を主因に21年9月末比減少

●有価証券

- 国債投資の増加により、21年9月末比大幅な増加

●預金

- 海外店預金は減少の一方、国内預金の大幅増加により21年9月末比増加

●開示債権

- 開示債権の増加により、開示債権比率は21年9月末比悪化も、依然低水準

●その他有価証券評価損益

- 国内株式、その他を中心に21年9月末比改善

●自己資本比率

- 増資等により、21年9月末比大幅に上昇

<連結B/S>

(単位: 億円)

		22年3月末	21/3末比	21/9末比
1	貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	850,359 [848,806]	▲72,206 [▲71,762]	▲31,712 [▲31,514]
2	うち国内法人貸出*1	477,719	▲24,672	▲3,411
3	うち住宅ローン*1	174,673	1,031	1,658
4	うち海外貸出*2	166,517	▲28,368	▲8,492
5	有価証券(銀行勘定)	639,644	156,503	65,800
6	預金	1,238,919	37,423	18,482
7	うち個人預金(国内店)	630,453	1,637	2,009
8	国内預貸金利回り差 (2行合算)	(21年下期) 1.31%	(20年下比) ▲0.13%	(21年上比) ▲0.03%
9	金融再生法開示債権*1	13,487	1,588	1,028
10	開示債権比率*1	1.50%	0.25%	0.12%
11	その他有価証券評価損益	8,127	17,304	3,978
12	連結自己資本比率 (Tier1比率)	14.87% (10.63%)	3.09% (2.86%)	1.57% (1.50%)

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

【連結】



●連結貸出金残高85.0兆円
(21/9比▲3.1兆円)

<21/9比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲0.3兆円
- 海外貸出*1 ▲0.8兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.7兆円

*1 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU (中国)

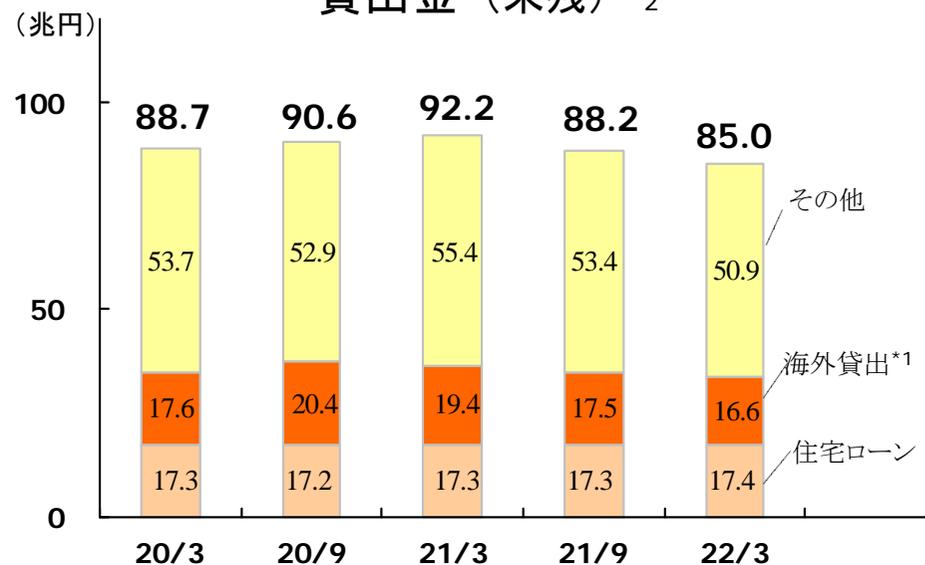
*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高123.8兆円
(21/9比+1.8兆円)

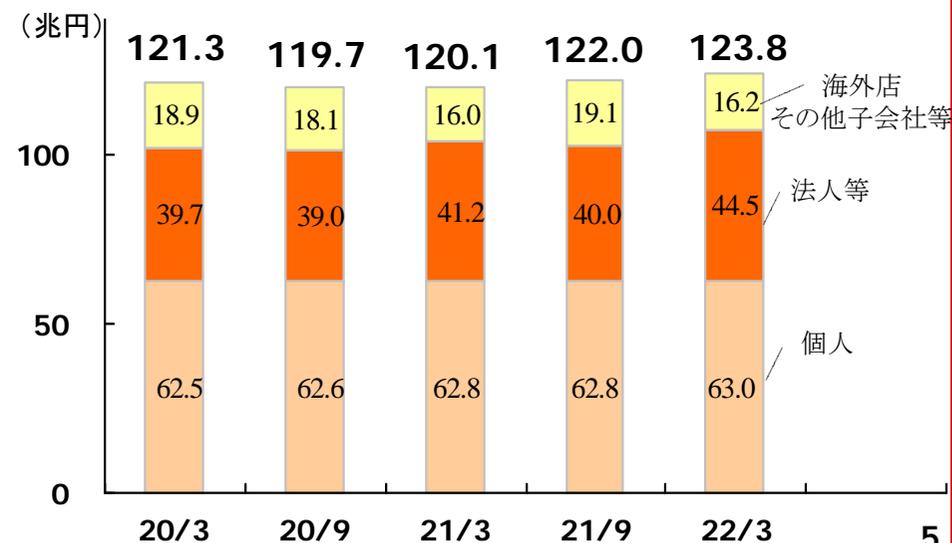
<21/9比増減の主要因>

- 個人預金 +0.2兆円
- 法人等預金 +4.5兆円
- 海外店預金 ▲1.5兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.9兆円

貸出金 (末残) *2



預金 (末残)



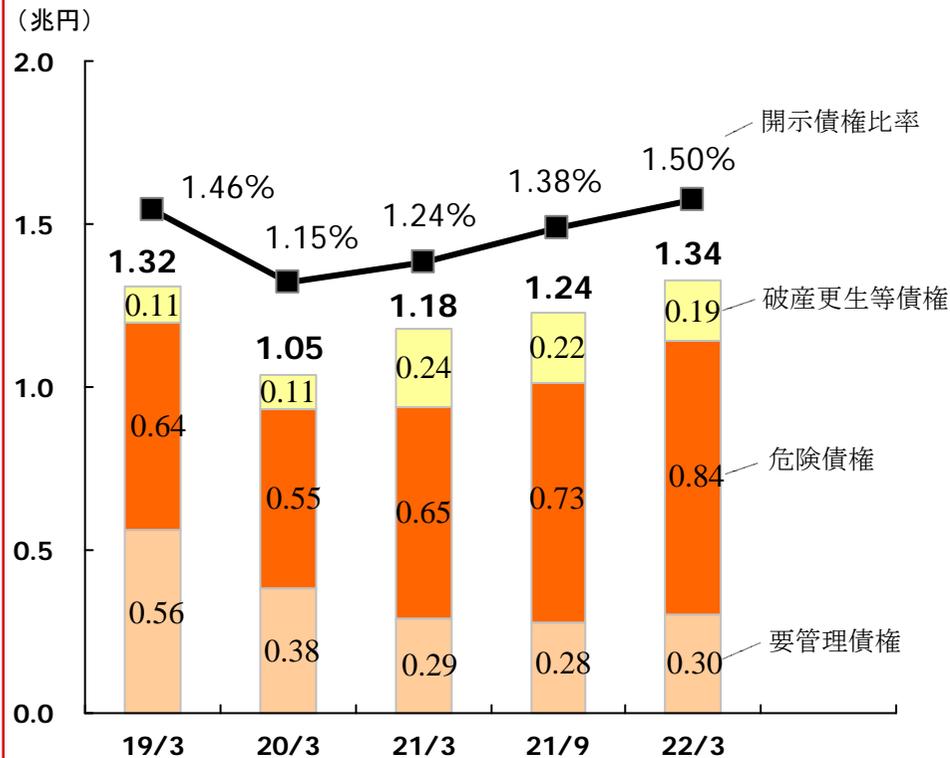
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

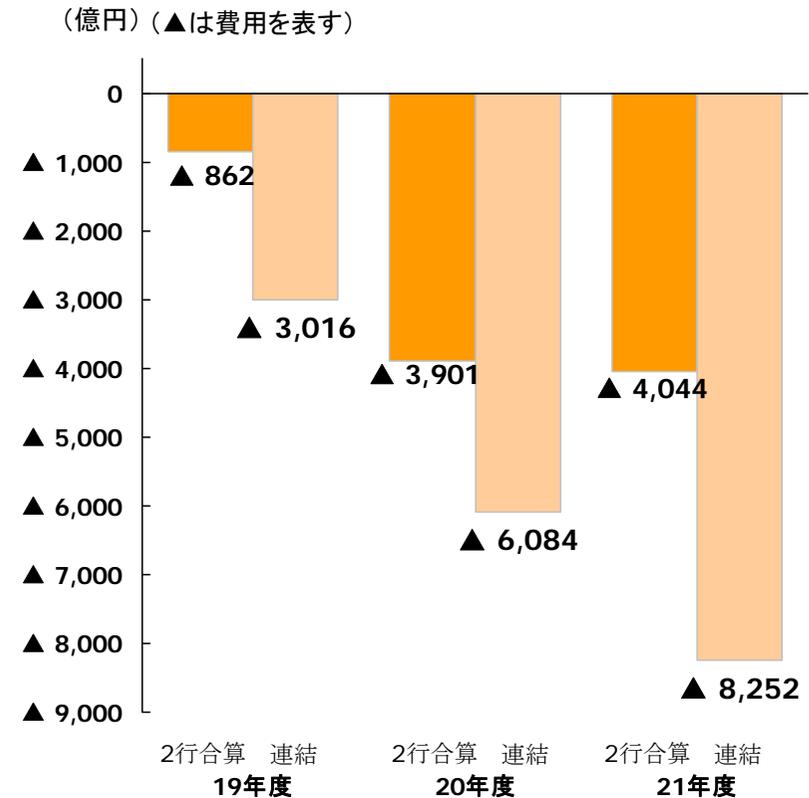


- 危険債権及び要管理債権の増加により、開示債権比率は21/9末比0.12ポイント上昇の1.50%
- 与信関係費用総額は2行合算で4,044億円、連結では8,252億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



与信関係費用総額



保有有価証券の状況

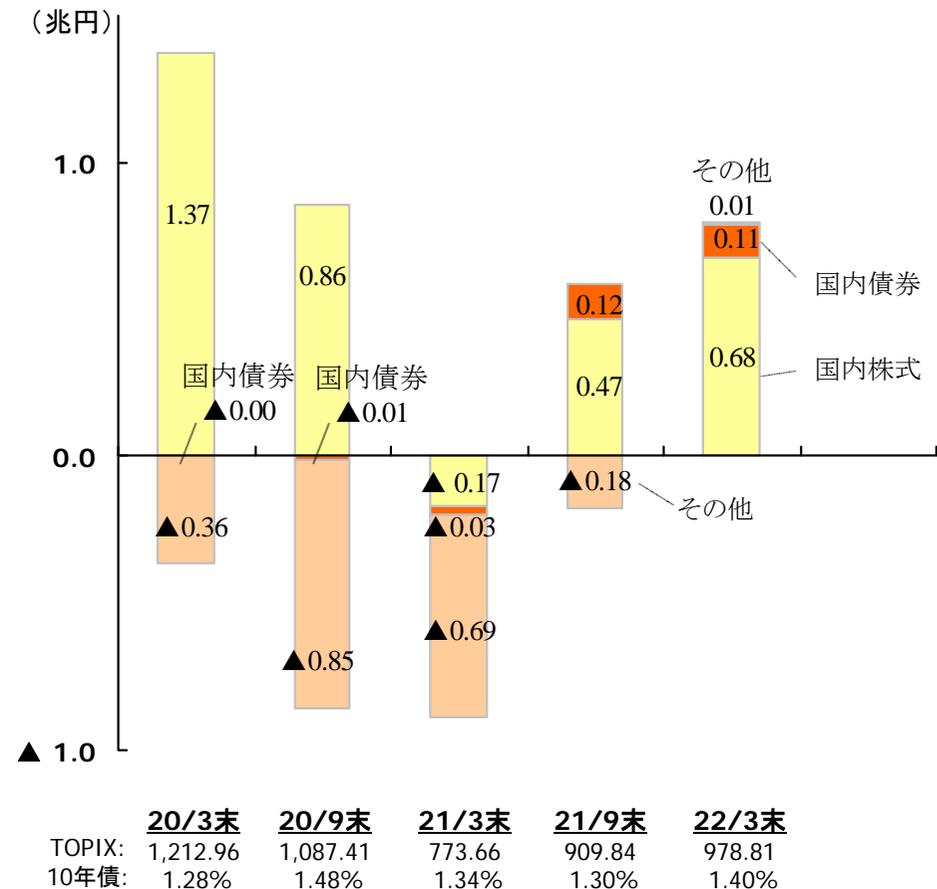
- 株式相場の上昇等を背景に、国内株式、その他を中心に評価損益が改善
 その他有価証券全体の評価損益は21/9末比3,978億円増加

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	22年3月末 残高	評価損益	
			21/9末比
合計	604,063	8,127	3,978
国内株式	42,773	6,817	2,049
国内債券	433,766	1,171	▲71
国債	387,480	799	▲222
その他	127,523	138	2,000
外国株式	2,825	735	99
外国債券	107,025	772	161
その他	17,671	▲1,370	1,739

その他有価証券評価損益の推移



● 証券化商品等の残高は約1.74兆円(21/9末比▲2,430億円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、約1.74兆円に減少(21/9末比▲2,430億円)
- 評価損益は▲1,250億円と、21/9末比810億円改善
- 通期の損益(P/L)への影響額は、減損等による▲110億円

残高及び評価損益

(単位:億円)

	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
		21/9末比		21/9末比	残高	評価損益
1 RMBS	800	▲250	30	80	0	0
2 うちサブプライム	220	▲120	60	60	0	0
3 CMBS	230	▲20	▲20	0	0	0
4 CLO	15,240	▲420	▲1,200	660	12,210	▲1,000
5 その他(カード等)	1,060	▲1,680	▲60	50	270	▲10
6 CDO	80	▲50	0	20	0	0
7 SIV	0	0	0	0	0	0
8 合計	17,410	▲2,430	▲1,250	810	12,480	▲1,010

* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、平成21年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

● 自己資本額

- 普通株公募増資による資本金・資本剰余金の増加に加え、利益剰余金や有価証券含み益の増加等により、21年9月末比1.04兆円増加

● リスクアセット

- 法人貸出金の減少や泉州銀行の非連結化等を主因に、21年9月末比3.28兆円減少

〔採用手法〕

- 信用リスク: 先進的内部格付手法(AIRB)

- オペレーショナルリスク: 粗利益配分手法

- 自己資本比率 : 14.87%
- Tier1比率 : 10.63%
- コアTier1比率*1 : 8.28%

(単位: 億円)

	21年3月末	21年9月末	22年3月末	21/9末比
1 自己資本比率	11.77%	13.29%	14.87%	1.57%
2 Tier1比率	7.76%	9.13%	10.63%	1.50%
3 コアTier1比率	5.77%	6.83%	8.28%	1.45%
4 Tier 1	75,751	88,943	100,096	11,152
5 うち資本金・資本剰余金	35,189	35,188	45,599	10,410
6 うち利益剰余金	41,686	42,382	44,055	1,672
7 Tier 2	42,161	43,835	44,496	660
8 うち有価証券含み益	—	1,851	3,627	1,775
9 自己資本	114,784	129,489	139,917	10,428
10 リスクアセット	974,934	973,682	940,813	▲32,869
11 信用リスク	902,429	899,023	852,927	▲46,095
12 マーケットリスク	15,876	17,776	19,027	1,251
13 オペレーショナルリスク	56,627	56,883	68,858	11,974

*1 コアTier1 = Tier1 - (優先株式 + 優先出資証券)
 コアTier1比率 = コアTier1 ÷ リスクアセット

22年度業績目標／配当金予想

【連結・単体】



【業績目標】

〔連結〕

		中間期 (参考値)	22年度通期 (目標)
1	経常利益	3,700億円	8,300億円
2	当期純利益	1,700億円	4,000億円

【配当金予想】

		中間配当金 (予想)	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1	普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円

〔三菱東京UFJ銀行〕

(単体)		中間期 (参考値)	22年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	4,150億円	8,700億円
2	経常利益	2,450億円	5,500億円
3	当期純利益	1,450億円	3,300億円

〔三菱UFJ信託銀行〕

(単体)		中間期 (参考値)	22年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	650億円	1,450億円
2	経常利益	450億円	1,050億円
3	当期純利益	250億円	650億円

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。